

【名 称】中井家住宅

【所在地】丹波篠山市今田町四斗谷 455 番地

【指定番号】第 8 号

【指定年月日】令和 4 年 1 月 19 日

【構 造】①主屋（平家建）
②土蔵 1（2 階建）
③離れ納屋（2 階建）
④納屋（平家建）
⑤土蔵 2（2 階建）
⑥土塀、脇門
⑦座敷庭

【敷地面積】882.64 m²

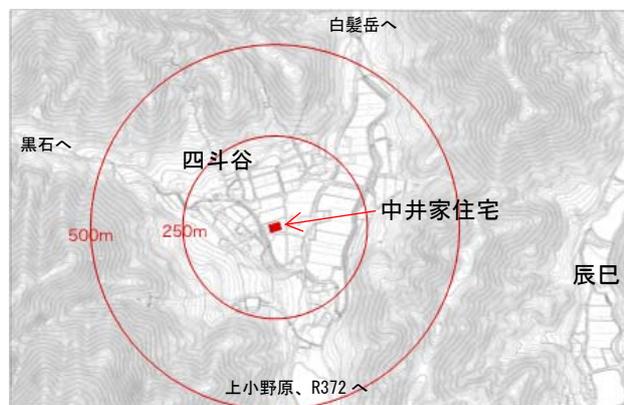
【建築面積】292.05 m²

【延床面積】382.47 m²

【建築年代】推定明治後期



中井家住宅



位置図

【建造物の由来・沿革・特徴】

中井家は、室町時代から続く四斗谷の草分け的な庄屋で、県指定の無形民俗文化財「住吉神社（上小野原）の神舞（蛙踊り）」を司る宮座の宮年寄（永代役員）である三頭屋のひとつを務める。前庭を有する建物は、主屋と離れ、二つの土蔵と納屋、脇門を備えた土塀

等からなり、前庭を含む屋敷地全体の周囲を農地が取り囲んでいる。茅葺の主屋は、丹波地域の茅葺に広く見られる置き千木ではなく民家では珍しい瓦葺の箱棟の豪壮な棟抑えとなっており、中門造の屋根形状にシコロと呼ばれる瓦葺下屋が茅葺屋根の周囲を囲む主屋の佇まいは、中井家特有の存在感を放っている。主屋の間取りは、農家中門造の間口の大きい平家に共通する、通り土間に縦長六室を配したもので、丹波篠山の近世以降の中門形式農家の間取りとなっている。土蔵は、棧瓦葺の木造 2 階建て、外壁は漆喰塗に腰焼杉張、主屋の北側に位置する納屋は棧瓦葺で、外壁は灰中塗、腰焼杉張となっている。

中井家、前中家の両家の住宅は、中門造の主屋の平面形状のみならず、周囲の農地も含めた敷地形状や規模、建物の全体配置等が酷似しており、盆地中央に脇門を備えた中門造の茅葺 2 軒が並び立つ佇まいは、非常に貴重な歴史的な景観を形成している。

【指定理由】

中井家住宅は、四斗谷地域の歴史・文化等からみて、地域を代表する中門造の茅葺民家であり、四斗谷の歴史的な景観形成に欠くことのできない建造物である。周囲からも容易に望見される非常に目立つ存在であることから景観重要建造物に指定するにふさわしい建造物である。